

# 愛知県南海トラフ地震被害予測調査の進捗状況 概要

- 経緯：国の南海トラフ巨大地震被害想定の見直しを踏まえ、本県の被害想定の見直しを実施（2024年度防災会議において会長から地震部会へ指示）
- 調査期間：2024年度～2025年度（公表：2026年6月頃（2026年度防災会議））【参考：前回 2011年度～2013年度実施 2014.5公表】
- 調査体制：愛知県防災会議地震部会の下に、「愛知県南海トラフ地震被害予測調査検討委員会」を設置  
さらに検討委員会の下に、「被害予測ワーキンググループ」を設置し、検討委員会の指導助言を受け調査を実施

## 調査内容

項目	2024年度	2025年度
過去の津波浸水範囲に関する歴史的資料収集 ・前回調査以降に更新された資料の収集・整理	○	
地盤データの収集 ・前回調査以降のボーリングデータの収集・整理	○	
地盤モデルの作成 ・前回の地盤モデルに新たなデータを付加したモデルの作成	○	
津波計算のための地形、堤防等のデータ作成及び津波による被害予測のデータ整理 ・津波・河川の遡上予測のための標高データ、堤防データ等の作成	○	
被害予測のためのデータ収集・整理 ・建物、都市計画基礎調査、人口データ等の収集・データベース化	○	○
震源モデルの検討 ・過去地震最大モデル等の震源モデルの検討	○	
予測手法の検討 ・前回調査以降の知見を踏まえた被害予測手法の検討	○	
地震動の計算 ・地震動の計算及び計測震度等の予測の検討	○	○
液状化予測 ・砂質土層に加え、軟弱な土層を考慮した予測の検討	○	○
崖崩れの予測 ・既往の危険箇所の危険度の判定についての検討	○	○
津波の予測 ・「津波防災地域づくりに関する法律」の手引き等に基づく予測の検討	○	○
被害予測 ・収集整理したデータに基づく被害予測の検討	○	○
災害対応力の確認 ・消防、医療、避難所、備蓄物資等の保有量等の収集・整理	○	
近年の地震災害の対応状況の確認 ・能登半島地震等の近年の地震災害の被害状況等の収集・整理	○	
災害シナリオの作成		○
防災対策の課題の検討		○
減災効果の検討		○
地震防災対策のまとめ		○
国の被害予測との整合性の確認	○	○

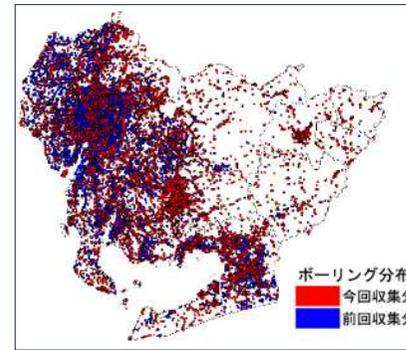
## 2024年度調査のポイント

### 地盤データの収集

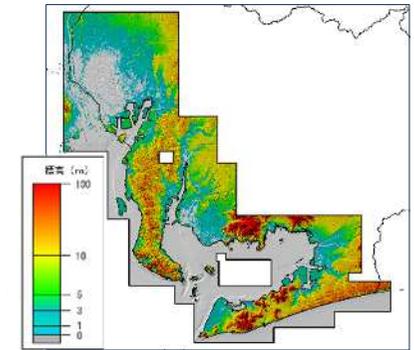
- ▶ 新たに約2万2千本のボーリングデータを収集し、地盤データを更新

### 津波計算のための地形、堤防等のデータ作成

- ▶ レーザー測量による標高データを収集し、地形データを更新



収集したボーリングデータ



更新した陸地の標高データ

### 被害予測のためのデータ収集・整理

- ▶ 建物データ、人口データの収集等、前回調査以降の社会状況の変化を反映するためのデータ収集・整理
- ▶ 住宅・建築物の耐震化状況、河川・海岸堤防の整備状況等、前回調査以降の対策効果を反映するためのデータ収集・整理

### 予測手法の検討

- ▶ ゼロメートル地帯における浸水被害や津波避難等、本県の地域特性を踏まえた被害予測の検討
- ▶ 災害関連死の被害予測や南海トラフで時間差をおいて発生する地震による被害予測等、近年の地震災害の教訓や社会状況を踏まえた被害予測項目の追加の検討
- ▶ 建物の耐震化や津波からの早期避難等、県民による防災対策の効果の算出方法の検討